

暁斎

きょうさい

先駆の絵師魂！

父娘で挑んだ画の真髄

暁翠伝

きょうすい

The Kawanabe Kyosai Memorial Museum Ancestral Collection: Kyosai and Kyosui

The Soul of the Artist as Pioneered by Father and Daughter

- Bilingual (Japanese/English) Exhibition -

記念講演会

「曾祖父暁斎、祖母暁翠を語る」

2018年4月15日(日) 午後2時から1時間程度(開場13時30分)

会場：東京富士美術館/本館 ミュージアムシアター

料金：無料(ただし、展覧会の入場料金が必要)

申込：不要。定員200名

※当日正午より、講演会場入口にて入場整理券を配布(お一人様一枚配布)

講師：河鍋楠美(河鍋暁斎記念美術館 館長)

本展監修者であり、河鍋暁斎の曾孫、河鍋楠美氏(河鍋暁斎記念美術館 館長)を招いて、曾祖父・暁斎、祖母・暁翠についてお話いただきます。

講師プロフィール：河鍋楠美(KAWANABE Kusumi)

公益財団法人河鍋暁斎記念美術館理事長・館長。暁斎の曾孫。1931年、東京生まれ。

強制疎開で1944年より蕨市に移転して以来、現在も在住。東京女子医科大学卒業後、東京大学にて医学博士取得。1964年、蕨眼科を開業(院長)。1977年、暁斎と一門を顕彰するための「暁斎記念館」を開館(1986年に財団法人の認可を受けて「河鍋暁斎記念美術館」と改称。2012年に公益財団法人へ移行)。現在までに暁斎単独の展覧会を31回開催。1993～94年には大英博物館(ロンドン)での「画鬼：河鍋暁斎の芸術」展、2008年には京都国立博物館で「絵画の冒険者 暁斎 近代へ架ける橋」展など大きな回顧展も開催。また、研究雑誌『暁斎』(124号続刊中)をはじめ、復刻本や画集を多数出版。

埼玉県文化ともしび賞、浮世絵学会・内山賞(現・国際浮世絵学会)、蕨市けやき文化賞、厚生援護功労賞(東京都知事)等、受賞。

著書に、狩野博幸・河鍋楠美共著『反骨の画家 河鍋暁斎』(新潮社)、河鍋楠美監修『TJMOOK「画鬼」河鍋暁斎』(宝島社)、『河鍋暁斎・暁翠伝』(角川書店)がある。

<講演内容>

現在開催中の「暁斎・暁翠伝」展は、私の曾祖父と祖母の作品や遺品を公開した展覧会である。しかも、大きな特徴は、当館の所蔵作品や河鍋家に伝来した下絵・画稿・資料を中心とした展覧会である点にある。

曾祖父の河鍋暁斎は茨城県古河市に幕末に生れたが、数え2歳の時、家族で江戸へ出たため、明治22年に亡くなるまで江戸・東京で活躍した。7歳で浮世絵師の歌川国芳に入門したが、幕臣の定火消同心の父親が後に2年後に辞めさせ、10歳で狩野家へ再入門させ、早くも19歳で画業をいただき卒業したことから、浮世絵、狩野派の両方の画法に習熟し、さらにさまざまな伝統の流派も研究した。そのため、描けぬものが無いほどの絵師となり、厳粛な仏画から伶俐な美人画、陽気な戯画、そして錦絵や挿絵本、デザイン画まで縦横に描き、幕末から明治前半を駆け抜けた。こうした暁斎は、存命中から海外でも知られ、鹿鳴館の設計で有名な英国人建築家のジョサイア・コンドルまで入門した絵師だったのだ。一方私の祖母で、私の祖母の暁翠は、幼いころから父・暁斎に絵を学び、父亡き後も日本画家として展覧会に出品し、明治30年代後半には、当時できたばかりの私立女子美術学校、つまり現在の女子美術大学で教鞭をとっていた。さらに明治後半から昭和初期に亡くなるまで、良家の子女などに絵を手ほどきし、自らが描くだけでなく、絵画教育にも携わっていた人だった。しかし、父・暁斎が忘れられるとともに、暁翠の名も、全く顧みられなくなった。本展では、暁斎の娘・暁翠の実力ある作品の数々も、大々的にご覧いただく。私は暁斎と暁翠の歴史を踏まえ、暁斎がどのような時期に生きたか、暁斎の作品にはどのような魅力があるか、さらにその娘・暁翠が父をどのように学び、父とは異なるどのような魅力をもっていたか。さらにその教育者としての生き方について、スライドを多数活用し、ご紹介したい。